

令和6年度 大館市立早口小学校 学校評価書(前期・年度)

A 学校教育目標

未来を見つめ はつらつと学び 共に輝く 子どもの育成

めざす学校の姿

- ☆楽しく学び、達成感や自己有用感を抱く学校(子ども)
- ☆経営方針や様子が分かり、信頼できる学校(保護者)
- ☆子どもの元気が届き、応援したくなる学校(地域)
- ☆学び合い、高め合い、力を発揮できる学校(職員)

めざす子どもの姿

- は: はつらつと伝え合う子ども
- や: やさしく親切な子ども
- ぐ: くじけずにがんばる子ども
- ち: ちいきを愛する子ども

経営の重点

人皆に美しき種子あり「**TANEPRO CHALLENGE!**」

～「おおだて型学力」を育てる「自尊・自立・貢献」のふるさとキャリア教育～

重点1 学力の定着と向上

- 基本的学習習慣、学習規律の確立
- 意欲を高め、子どもが活躍する授業の推進
- 確かな学力の向上と共感的・協働的学び合いの推進
- UDを基本とする学習環境の充実

重点2 豊かな心の育成

- 元気なあいさつと返事の奨励
- 何でも言い合える学級づくり
- 安心・安全でみんなが気持ちのよい学校づくり
- 道徳科・道徳教育の充実
- 思いやりの心を育む特別活動の推進



キーワードは

早小フライド

自尊・自立・貢献



重点3 健康教育の充実

- 基本的生活習慣の定着
- 健康・安全教育の充実
- 体力テストの結果を生かした体力づくり
- 食育・保健教育の充実

重点4 家庭・地域との連携

- ふるさとキャリア教育の一層の充実
- 「早口川の徒漕ぎ」の確かな継承
- 地域素材・人材を活用した多様な体験活動の展開
- ふるさと早口を愛する心、地域貢献しようとする態度の育成

めざす教師の姿

- 愛情と情熱をもち、子どもとともに歩む教師
- 自ら研修に励み、学び続ける教師
- 家庭や地域と連携し、信頼される教師

子どもを支える地域・家庭

- 自己有用感を育む温かい地域・家庭
- 安全・安心に過ごせる地域・家庭
- 子どもの夢を大切に育む地域・家庭

教師集団
(チーム早小)

情報発信・情報共有、協力・連携、提言

学校運営協議会



学習発表会での全校合唱



保小交流サツマイモ掘り



ありがとう集会

学校評価Aと学校関係者評価の評価区分	きわめて良好	学校評価Bの評価基準	5	実現状況は極めてよく意識も高い／数値目標に対し100%以上達成
	良好		4	実現状況は良好で意欲もある／数値目標に対し80～99%達成
	おおむね良好		3	実現状況はおおむね良好／数値目標に対し60～79%達成
	やや不十分		2	実現状況はやや不十分で取組が不安定／数値目標に対し40～59%達成
	努力を要する		1	実現状況は不十分で努力を要する／数値目標に対し39%以下の達成

ア 児童の状況

I 自主的・自立的な生活

児童生徒の状況	学校評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
明るく心のこもった挨拶をし、規律ある落ち着いた生活を送りながら、主体性や責任感を育もうとしている。	前期	おおむね 良好	基本的な生活習慣の個人差が出ている。改善に向けての取組がなされているほか、メディアコントロールに関してはPTAでの講演も準備されている。日常的な習慣を大事にして向上を図ってほしい。
	年度	おおむね 良好	
学校評価の概要と学校の改善策	【前期(→年度)】 ○学年ごとに取り組んだ「学年あいさつ運動」、はつらつチームごとに取り組んだ「あいさつもらい隊」等、児童会の活動を軸に、あいさつと言葉遣いについて取り組んだ。また、小中連携あいさつ運動を実施し、中学生と交流したことが互いにより刺激となった。一活動中は自発的なあいさつを意識できたが、校外や活動時以外の場においての習慣化に課題が見られる。手本となるあいさつを全体で共有し、日常的な指導を継続しながら意識向上を図る。 ○小中連携自立プランについてPTAで話題に取り上げ、家庭との共通理解を図った。また、自己肯定感を高められる取組となるよう、今年度は振り返りと自己評価の仕方を見直した。→学校と家庭の両方で働きかけながら、基本的な生活習慣の形成を図る。 ○交通安全や学校生活の約束では、危険な場合はその都度伝え、適時に登下校指導等を行い、注意喚起した。→「早小7ルール」の意識付けと、実態に応じて適時にルールを確認していく。 ○なかよし班で、掃除・体力テスト・なかよし班遊び等を通して他学年との交流を深めた。また、元気農園活動では、異学年ペアとなり協力して取り組んだ。→今後も高学年を中心に、他学年と交流できる場を設定していく。 ○児童総会に向けて、各学級で、「様々なロス削減活動」「メディアコントロールに関わる活動」について話し合い、当日は新たに考えた意見の交流も行った。→決定した取り組みについて児童会便りで報告し、実践していく。		
	【年度(→次年度)】 ○あいさつや言葉遣いに関し、月目標と「早小7ルール」を関連させて取り組んだ。運営委員会の児童を中心に全校集会で呼びかけたり、あいさつ運動等で意識付けたりした。→より自発的なあいさつの習慣化を図れるよう、あいさつ運動やあいさつもらい隊の実施の仕方を工夫する。(月初めに縦割り班でチームを組み、定期的の実施) ○小中連携自立プランについて、学年通信や学年懇談等で家庭に周知。今年度より家庭からのコメント欄を設けたり、具体的な自己評価ができる振り返り欄を加えたりした。→今後も家庭と連携して取り組む。現在はカード化したものに目標・評価を記載しているが、より効果的な活用となるよう、小・中連携研究会にて来年度の取り組み方を検討中。 ○早小7ルールの確認、生徒指導より長期休みのおたより等で、安全について児童と保護者に働きかけた。また、状況に応じて集会を開き、注意喚起をした。 →今後も安心・安全に生活できるよう、家庭や地域との連携を密にして対応していく。 ○新たななかよし顔合わせから、なかよし班遊びを実施。また、はつらつチームで行う農園活動では、保育園児と一緒にさつまも掘りや土落としなどの交流を行った。クラブ活動では、学習発表会・分館祭・地区文化祭に向けて練習を行った。 →これからも計画的に異学年交流の時間を設定していく。また、児童数減少に伴い、異学年で行う行事の検討もしたい。 ○月目標と関連しながら、学級の実態に応じて話し合い活動を実施。 →今後も指導部や委員会から話題の提案を行う。また、学級の実態や人数に応じて活発な話し合いになるよう、学級会の進め方の工夫を考えていきたい。		

	実践課題	主な取組	学校評価B	
			前期	年度
1 基本的な生活習慣の確立	(1) 正しい言葉遣いと明るいあいさつの習慣化	学校内外での明るいあいさつ 小中連携あいさつ運動 正しい言葉遣いの指導	3	3
	(2) 自立に向けた基本的な生活習慣の形成	小中連携自立プランの活用と定着 家族の一員としての自主的な手伝い習慣の奨励	3	3
	(3) 生活の約束を守る姿勢・態度の定着	児童主体の早小7(セブン)ルールの実践 生徒指導だよりの発行	3	3
2 集団生活・集団活動	(4) 自主的・実践的な態度を育てる特別活動	学校行事・元気農園活動・児童会活動・集会活動等への自主的・積極的な参画と運営 異学年同士で認め合い協力し合う縦割り活動	4	4
	(5) 明るさとやる気に満ちた学級集団の形成	学級活動の充実 主体的な係・当番活動への取組 学級会の主体的な話し合い活動	4	4

★実践 ○児童 □保護者 ■教職員

[1基本的な生活習慣に関するデータ]

- (1) 正しい言葉遣いと明るいあいさつの習慣化
- 進んで元気にあいさつしている。
- 本校の子どもたちは自分から元気にあいさつができていますか。
- 校外での明るいあいさつ、正しい言葉遣いができているか。

- (2) 自立に向けた基本的な生活習慣の形成
- 学校の準備などを自分でしている。
- 自分で学習の準備をしたり家のお手伝いをしたりしているか。
- 自立に向けた基本的な生活習慣ができているか。

- (3) 生活の約束を守る姿勢・態度の定着
- 交通安全のルールや学校、家の約束を守って生活しているか。
- 交通ルールや学校、家庭の約束を守っているか。
- 生活の約束を守る姿や態度が定着しているか。



★小中合同あいさつ運動
活動後の振り返り



★小中連携自立プランにおける
シートの活用

[2集団生活・集団活動に関するデータ]

- (4) 自主的・実践的な態度を育てる特別活動
- 学級の行事や委員会活動、チーム活動、なかよし班でのそうじなどに進んで取り組んでいる。
- 行事や児童会活動、はつらつチーム活動等は主体性や実行力を育んでいるか。
- 自主的・実践的な態度を育てる特別活動となっているか。

- (5) 明るさとやる気に満ちた学級集団の形成
- 学級の係や当番活動、学級会の話し合いに進んで取り組んでいる。
- 係や当番活動、学級会が工夫され主体的に取り組んでいるか。
- 学級の係・当番活動、学級会の主体的な話し合い活動ができているか。

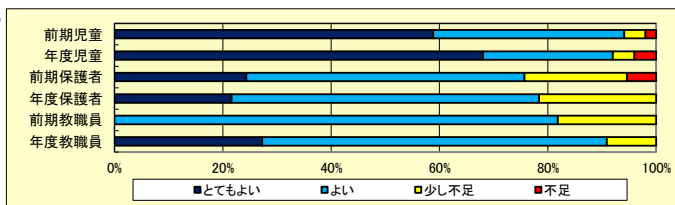


★新たななかよし班顔合わせ

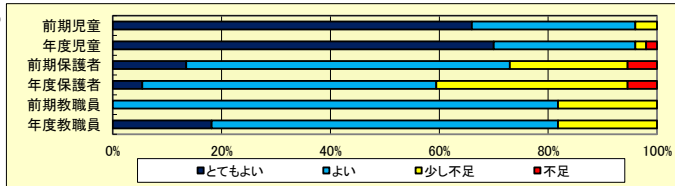


★クラブ活動(田代太鼓クラブ)

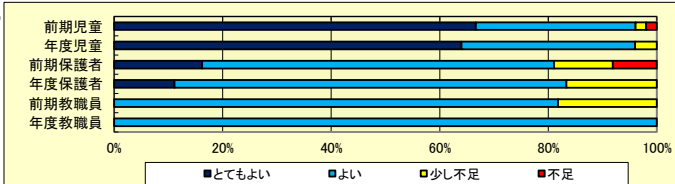
(1)



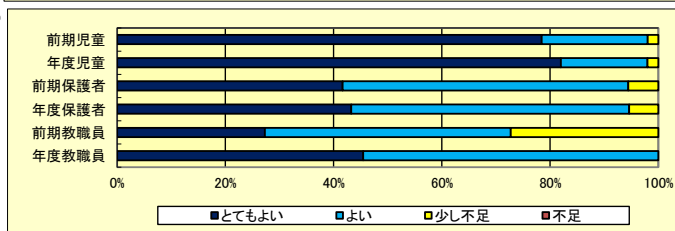
(2)



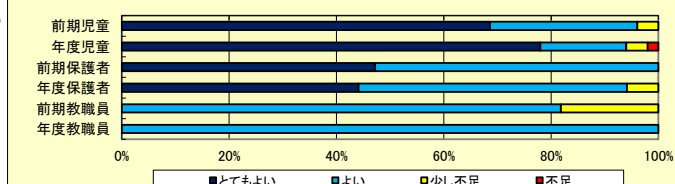
(3)



(4)



(5)



ア 児童の状況

Ⅱ 豊かな心

児童生徒の状況		学校評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント	
自分らしさを発揮しながら、夢の実現に向かって努力する、豊かな人間性を育てている。	前期	おおむね良好	良好	個性に応じた指導が配慮されて行われており、一人一人のよさを認めている関係性が成立している。豊かな体験活動もその土台を支え、活躍の場を確保している。	
	年度	おおむね良好	良好	よい面はよいとして、学校も過小評価しなくてもよい。行事が楽しいという保護者や子どもたちの声を励みに、児童減少に負けない取り組みを進めてほしい。	
学校評価の概要と学校の改善策	【前期(一年度)】〇徒渡りや元気農園等において、異学年交流や地域の人材を生かした活動に取り組んだ。活動を通し、互いのよさや頑張りを認めたり、地域への誇りと感謝の思いを実感したりする様子が見られた。道徳の学習においては、自分との関わりとして考えられるよう、行事や日常生活の場面を想起しながら課題を設定した。また、学校行事等のねらいに道徳の価値項目を明記し、教員間で意識付けを図った。→相手意識をもち、その場に応じた正しい言葉遣いができるよう引き続き指導し、より一層思いやりの心を育てていきたい。 〇週1回の子どもの語る会や月1回の教育相談を通し、児童の実態把握に努めた。また、各学級でよさや頑張りを伝え合う場を設けた。→情報を共有しながら児童の実態把握に努め、所属意識が高まるような学級活動を工夫していく。 〇温かい雰囲気の中で異学年交流を進めていけるよう、なかよし班顔合わせ後、班のメンバー全員で遊ぶ時間を設けた。高学年が企画・運営し、リーダーシップをとりながら異学年で楽しく交流した。「美しき種子」活動では、地域の方々と関わりながら活動するとともに、徒渡りについて他校へPR活動を行ったり、学んだことを発信したり、自分の役割を自覚しながら一人一役で活動に取り組んだ。→今後も自己有用感を実感できるよう、活動の目標と目的意識をもって取り組めるような場の設定をしていく。				
	【年度(一年度)】 〇道徳の時間を通し、互いの考えを共有しながら認め合える場を設定したり、学校行事に道徳の価値項目を位置付けて日常との関連を図ったりした。また、元気農園活動やはつつつ弁当事業への関わり等、地域の人材を生かした様々な体験活動を行った。ありがとう集会では、児童が中心となって会を運営し、お世話になった方々に感謝の思いを伝えた。 →今後も、異学年や保育園との交流活動、地域との関わりを大切にし、多様な価値観に触れながら思いやりの心を育てていきたい。 〇子どもを語る会や教育相談、いじめアンケート等で定期的に情報交換しながら児童について共通理解を図り、いじめや不登校等にチームとして対応した。 →今後も児童理解に努め、家庭との連携を密にしながら個々の思いに寄り添った対応をしていく。 〇「美しき種子」活動やなかよし班活動では、個々の役割を自覚しながら積極的に交流活動に取り組んだ。4年生は、社会福祉協議会と連携したはつつつ弁当事業への協力、5年生は、今年度より、元気農園で収穫したさつまいもとお米を早口の市日で販売する活動に挑戦した。 →今後も一人一役で地域貢献に取り組む、自己有用感を味わいながら地域とのつながりを深めていきたい。				
		実践課題		主な取組	
3 思いやりの心の育成	(6) 思いやりのある行動を育む環境と活動	ふるさとに広げる「美しき種子」活動(徒渡り・元気農園・はつつつ弁当) 道徳と日常活動との関わり		4	4
4 豊かな体験活動	(7) 自他のよさを認め合う学級づくり	学級目標の実現 認め合う学級活動 心の居場所づくり 生徒指導の機能を生かした授業 いじめアンケート・児童理解の会の活用 教育相談日の充実		3	3
	(8) 一人一人のよさの発揮と自己有用感の育成	学年のよさを生かすなかよし班活動 主体的な集会活動 交流活動の充実 「美しき種子」活動(元気農園・徒渡り等)を通じた地域貢献		4	4
★実践事項 ○児童 □保護者 ■教職員					
[3]に関するデータ					
(6) 思いやりのある行動を育む環境と活動		(6)			
☐ 道徳の時間には自分の行動や生活を振り返って考えたり、友達の気持ちを考えたりしている。 ☐ はつつつ元気農園や縦割り活動、道徳教育などで、子どもたちに豊かな心を育てていると思うか。 ☒ 道徳教育、縦割り活動、「美しき種子」活動などで思いやりの心を育てているか。		前期児童 年度児童 前期保護者 年度保護者 前期教職員 年度教職員 0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■とてもよい ■よい ■少し不足 ■不足			
 ★農園活動で収穫したさつまいもを使ったはつつつ弁当のレシピ贈呈式		★お世話になった地域の方々を招待し、感謝を伝えたありがとう集会 			
[4]に関するデータ					
(7) 自他のよさを認め合う学級づくり		(7)			
☐ 友達のよいところを見つけた、紹介したりしている。 ☐ 学校では子ども一人一人を大切にしてお互いのよさを認め合う学級づくりを行っていると思うか。 ☒ 学級目標を実現する心の居場所作り・学級活動・生徒指導の機能を生かした授業・児童理解ができているか。		前期児童 年度児童 前期保護者 年度保護者 前期教職員 年度教職員 0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■とてもよい ■よい ■少し不足 ■不足			
(8) 一人一人のよさの発揮・自己有用感の育成		(8)			
☐ はつつつ元気農園活動や徒渡りなどのふるさとキャリア教育で自分の種を育てようとがんばっている。 ☐ 色別チームやなかよし班、集会活動、はつつつ元気農園、徒渡りなどを通して、子どもたち一人一人がよさを発揮し自分を大切にすることを育てていると思うか。 ☒ なかよし班、チーム活動「美しき種子活動」などの交流・貢献活動によって、子どもたち一人一人が自己のよさを発揮し、自己有用感を高めているか。		前期児童 年度児童 前期保護者 年度保護者 前期教職員 年度教職員 0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■とてもよい ■よい ■少し不足 ■不足			
 ★上学年がリードして取り組んだ★市日に参加し、地域に発信した元気農園活動		さつまいも・お米販売			

ア 児童の状況

Ⅲ 健康と体力

児童生徒の状況	学校評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
健康や体力に関心をもち、望ましい生活習慣を形成しようとしている。	前期 良好	おおむね 良好	新体力テストの課題を活かし、業間マラソンは効果を期待したい。保護者とメディアコントロールによる睡眠の質の向上の必要性を共有して取り組み、日常生活への効果を期待したい。
	年度 良好	良好	メディアコントロールの啓蒙や調査活動が浸透してきている。それにより、実態を課題視できるようになってきたともいえる。個別の指導も含めて、現在の取り組みを進めてほしい。

学校評価の概要と学校の改善策	【前期(一年度)】○学校歯科医による歯の健康教室、1年生保護者の試食会及び児童の食育授業をし、健康についての意識が高まった。 →9月のメディアコントロール週間では、委員会活動による全校への呼びかけや、実態調査結果を活用した保護者への働きかけを行っていく。PTA授業参観では、メディアについての研修会を実施予定。 ○わくわくマラソンを週2回中休みに実施。記録カードに、運動会の結果と秋のマラソン記録会の目標・結果を記入する欄を作ったり、周回数に応じて県内の各地を旅する仕様にしたりしたことにより、児童の体力向上や運動意識の高まりが見られた。 →体力テストにおける持久力の高まりを提示しながら、さらに子どもたちの意欲を高め、秋のマラソン記録会の記録向上に繋げる。 ○昨年度の新体力テストの結果を補強運動や体育の指導に生かすことができなかった。 →結果を分析し、本校の児童が苦手な運動領域の改善に向けた実践を提示していく。 【年度(一次年度)】 ○田代中学校区で、児童がメディアについて作成した動画で呼びかけたり、PTAに合わせメディアコントロール教室を実施したりすることで、家庭も含め、望ましいメディア使用を意識づけることができた。また、栄養教諭による食育を全学年実施し、高学年では性教育を実施した。 →健康課題の改善に向け、次年度も工夫して実施していきたい。 ○わくわくなわとびに向けて、健康委員会が全校集会で技を提示した。 →学年によって取り組み姿勢に差が見られた。意欲的に自分の目標に向かって取り組むことができるように、担任から声掛けをしていく。 ○体力テストの結果を分析し、課題となる運動能力の補強運動を提示した。 →体育の準備運動の時間に実践できる内容を随時提案し、実施状況を確認していく。
----------------	---

評価指標	実践課題	主な取組	学校評価B	
			前期	年度
5 健康教育	(9) 望ましい食習慣と健康教育	生活実態調査による実態把握 メディアコントロールカード・食育指導の充実 保健だよりの発行など保護者への啓発	3	4
6 体力の向上	(10) 業間運動への積極的な取組	わくわくマラソン・縄跳び 外遊びの奨励 持久走記録会の実施	4	4
	(11) 新体力テスト結果の活用	昨年度結果の活用 体育学習での補強・準備運動	3	3

★実践 ○児童 □保護者 ■教職員

【5 健康教育に関するデータ】

(9) 望ましい食習慣と健康教育

- 歯磨きやメディアコントロールなどへの取組をすすんでがんばっている。
- 保健だよりの発行やむし歯予防・食育などの指導、メディアコントロールカードなどの実施は健康習慣への関心を高めているか。

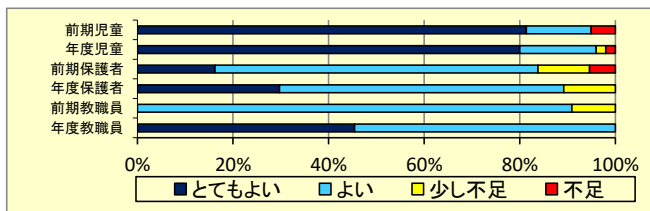
■ 実態把握調査による実態把握、むし歯予防指導、保健だよりを通して児童の食習慣と健康習慣が改善されているか。



★2学期末PTA(全校児童、保護者)「メディアコントロール教室」
講師：大館市立総合病院
小児科医 丹代 諭先生

★いのちの大切さ講座 (5・6年生)
講師：助産院イスキア
助産師 菅原 光子氏

(9)

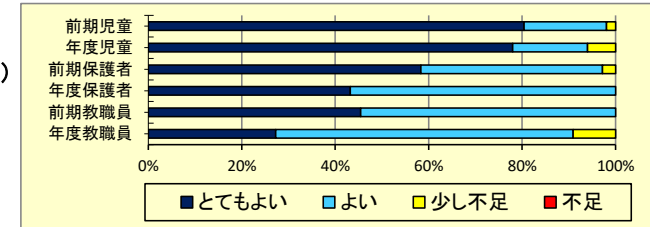


【6 体力の向上に関するデータ】

(10) 業間運動への取組

- わくわくマラソンなどの体力づくりに取り組んだり、外で遊んだりしている。
- わくわくタイムのマラソンやなわとび運動、外遊びの奨励は進んで運動し体を鍛えようとする子どもを育てているか。
- わくわくマラソンやなわとび運動、外遊びの奨励、持久走記録会の実施により児童の体力が向上しているか。

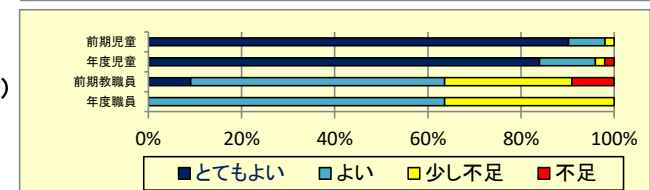
(10)



(11) 体力テストの結果の向上と活用

- 体育の時間には、自分が苦手な運動にもがんばって挑戦している。
- 体力テスト結果の分析・活用、体育授業での取組が体力向上につながっている。

(11)



★ わくわくマラソン・わくわくなわとび



★ 体育 柔軟性補強運動

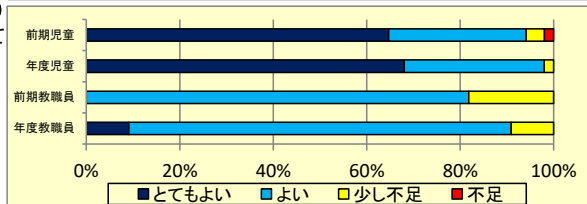
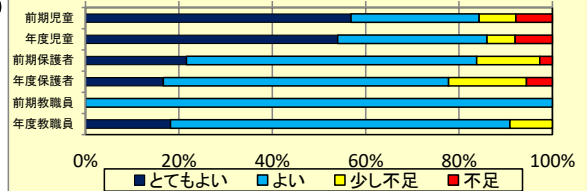
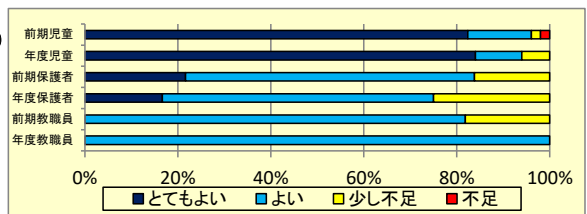
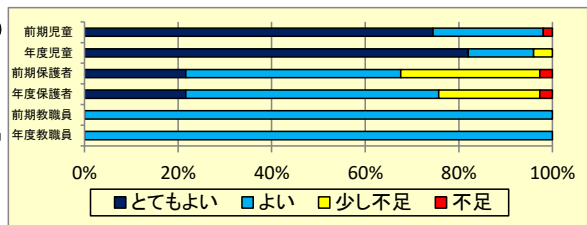


ア 児童の状況

IV 基礎学力							
児童生徒の状況		学校評価A 学校関係者評価		学校関係者評価委員のコメント			
意欲的に学習に取り組 み、基本的学習習慣を 身に付けながら学力を 向上させようとしている。	前期	おおむね 良好	おおむね 良好	子どもは自己評価が高いが、保護者や教職員の評価と差がある。日常の取組で、どのような改善 ができるのか検証やPTAでの話題にしたい。花マルDAYでの自分の言葉で表現をする場を設けて いるという取組は、今後も続けて主体的に表現する力を育成してほしい。			
	年度	おおむね 良好	おおむね 良好	諸検査の結果がよい。個人の課題や事情もあるだろうが、過小評価になっていないか、今一度考え てもよい。個別の課題もあると思うが、個別指導による回復指導もされており、全体的に高評価に 繋がる。			
学校 評価 の 概 要 と 学 校 の 改 善 策	【前期→(年度)】○「学びのルール定着」を月目標に設定し、職員が共通理解して指導を進めたことで、児童の意識を高めることができた。→職員や児童が声を掛け合っ て、ルールを守ることの徹底を図りたい。 ○自学ノートと宿題を併用して指導し、花マルDAYでも家庭学習の意欲を高めたが、学習時間や学習内容に個人差が大きい。→家庭での時間の使い方を改善し、家庭学 習の質・量面での向上を図りたい。家庭学習のよい例を他の児童や保護者に紹介して児童の意欲を高めたりやり方を教えたりする実践を継続したい。 ○図書委員会の活動や呼びかけにより、読書への興味を高めたり、図書室利用者を増やしたりすることができた。家庭での読書週間を身につけることが課題である。→図 書室利用を更に推進し、教科指導と関連付けた読書活動の充実も図りたい。保護者にも家庭で読書する時間を設けるなどの啓蒙を行う。 ○学び合いや深め合いを目的とした「はつらつタイム」を設定し、児童の実態に合わせた形態を工夫することで、友達と共に課題解決に向かおうとする姿が見られた。→友 達と学び合ったことが、個々の力となっているかを確認、児童一人一人の学力向上を図ってきたい。 ○全国学力・学習状況調査は、国語は全国平均を上回ったが県平均を下回り、算数は全国平均も県平均も下回った。→詳しく分析を行い、しっかりと回復指導をしていく。 個人差が大きいため、個に応じた指導にも更に力を入れていきたい。						
	【年度(→次年度)】○「学びのルール定着」は全体的によくできるようになってきたが、個人差がある。職員間での情報交換や共通実践の呼びかけを強化したい。 ○家庭学習の自学ノートでは、めあての立て方と学習内容に個人差・課題がある。→指導部として、職員間・児童間の情報交換を密にして、家庭学習に対する児童の意識 を高め、質・量面での向上を図りたい。 ○昨年度よりも朝読書回数が減ったが、限られた時間で読書できている児童が多かった。読書月間では学年に合った読書記録蓄積の仕方を工夫し、図書室利用を促進 する取り組みも実施できた。しかし全体的に図書室利用が少ない。→読書意欲向上や図書室利用促進に向けた取り組みを工夫したい。担任による読書指導もお願いいた い。 ○個やペア・グループそして全体というように形態を工夫しながら「はつらつタイム」を設定することで、児童の発表意欲が向上してきた。→「学び合い」をさらに「深め合い」 へと高めていくことができるように、学年の発達段階に応じた話し合いの視点をもたせるなど工夫してきたい。 ○パワーアップタイムを実施し、児童の実態に応じた少人数指導を行うことで、当該学年や前学年の学習内容の定着を図ってきた。→全国学力・県学習状況調査や学力 調査の結果を分析し、さらに個に応じた回復指導を進めていきたい。						
評価指標	実践課題			主な取組		学校評価B	
						前期	年度
7 学習への 取組	(12) 基本的学習習慣の定着			早小っ子学びのルールの定着 学習カードの活用 花まる DAYの継続		4	4
	(13) 基礎・基本の確かな定着			はつらつと学び合う場の推進 パワーアップタイム等の継 続実施 家庭学習の充実		3	3
	(14) 表現力を高める読書活動の充実			読書意欲を高める読書指導・読書運動 学年おすすめの 本の活用 親子読書の奨励		3	3
8 授業改善と 学力向上	(15) 授業力向上の職員研修			課題解決に向かう授業改善 共感的・協働的学び合い学 習の推進 学び合う教職員		3	3
	(16) 諸検査の状況			全国学テ・県学習状況調査・学力調査の分析と活用・補充 指導		3	3
★実践 ○児童 □保護者 ■職員							
【7 学習への取組】 (12)							
(12) 基本的学習習慣の定着							
○ ハンドサインや話形、学習用具の整頓やノートの使い方などの約束を 守って、学習している。							
□ 基本的な学習習慣が身について、それぞれの学年に必要な家庭学習 の時間を確保している。							
■ 早小っ子学のルールの定着 学習カードの活用 花まるDAYの継続 が学習習慣の定着に結びついているか。							
(13) 基礎基本の確かな定着 (13)							
○ 家庭学習や授業中の練習問題などにかんがって取り組んでいる。							
□ ペア・グループを活用した学び合いやパワーアップタイム、家庭学習 強調週間の実施は、基礎的な学習の定着につながっていると思うか。							
■ はつらつと学び合う場の推進 パワーアップタイム等の継続実施によ り子どもの学力が定着しているか。							
(14) 表現力を高める読書活動 (14)							
○ 読書タイムに静かに読書したり家で学校から借りた本や家にある本を 読んだりしている。							
□ 朝読書や読み聞かせ会、読書環境の整備、親子読書の奨励によっ て読書への関心が高まっていると思うか。							
■ 読書、読み聞かせ、親子読書により表現力を高めているか。							
【8 授業改善と学力向上】 (15)							
(15) 授業力向上研修・学び合いの充実							
○ 授業中に友達の考えをしっかりと聞いたり、自分の考えを発表したりし ている。							
■ 授業改善、学び合いの充実が図られているか。							
(16) 諸検査の状況							
令和6年度 秋田県学習状況調査 12月実施(秋田県平均比 %)							
	4年	県比	5年	県比	6年	県比	
国語	78.7	112.6	80.8	104.9	76.1	95.4	
算数	80.2	113.1	79.2	116.0	65.0	96.4	
理科	84.3	114.9	89.6	115.8	81.2	109.0	
社会			81.3	109.9	76.5	103.2	

★ICTの活用
ノートだけでなくタブレットを使用した意見交流。

★学び合いの形態の工夫
意見を出しやすいペアやグループでの話し合いを設定。



★ICTの活用
ノートだけでなくタブレットを使用している意見交流。



★学び合いの形態の工夫
意見を出しやすいペアやグループでの話し合いを設定。

イ 学校運営の状況

V 教育課程・教育環境

学校の状況		学校評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
教育課程と教育環境の充実に向かって、チーム早くとして組織的、主体的に取り組んでいる。	前期	良好	良好	ふるさとキャリア教育を軸とした教育活動の充実が図られ、他校児童・生徒の参加や保護者・地域の協力も良好で評価も高い。先生方の職場環境としても良好であり、きわめて良好の評価に近い。後半の行事も協働体制の取組を大生にして子どもへの成長につなげてほしい。
	年度	良好	良好	施設は老朽化はしてきているが、学校の対応としてはよくやられている。ふるさとキャリア教育の充実も周知されており、規模は変化しても、協力体制を維持できていることが素晴らしい。

学校 評価 の 概 要 と 学 校 の 改 善 策	【前期(一年度)】〇児童一人一人が主体性をもって活動する「早口川の徒渡り」を目指して、「羽州街道の旅」～「学習会」～PR活動と活動を積み重ねた。本番は他校生を交えての実施となったことで、更に意識を高めて行うことができた。当日は悪天候であったが、保護者らの熱い思いもあり、関所等の設置、川沿いをおく等ができた。さつまいも苗植えても5年生を中心に保小連携を図って全校児童で関わり合っ活動することができた。→今後活動の仕方を模索しながら、ふるさとキャリア教育の充実に向けた実践を重ねたい。 〇毎日の管理教室の点検と毎月1回の安全点検を通し、児童が安全に過ごすことができるように努めてきた。今年度、第1要望事項として教育委員会に上げていた2・3階ベランダの縁部分を修繕していただいた。複式学級の教室整備としては、児童の実態や教科の特性に応じてよりよい学習が提供できるよう、教室内を仕切るパーテーションを購入し、2学年同じ教室で学習したり、別々の教室で学習したりするなど学習環境を工夫してきた。→安全点検を継続するとともに、全職員が危機管理意識をもって取り組んでいく。複式学級については、今後も必要な備品や教室環境を整えていきたい。
	【年度(一次年度)】〇保護者や地域の方々の協力を得ながら、「地域を笑顔に」をめざし、全校体制で収穫に係わる活動を実施することができた。→5年生の早口市日での販売～地域貢献活動～を定着させるとともに、今後も保小連携、全校体制での活動を通して地域とのつながりを感じ、感謝の気持ちをもって活動することができるよう計画していく。 〇月1回の安全点検以外にも、わずかな危険箇所や不具合等があれば職員間で報告し合う体制ができており、その都度、対応してきた。昨年度までに伐採した校庭の木を今年度片付けていただいた。来年度は、第3要望事項として教育委員会に上げていた遊具を修繕予定である。また、複式学級用の移動黒板も購入予定である。→今後も、ヒヤリハット事案を共有したり、児童の実態に応じた学習環境整備をしたりしながら、安心・安全な学校づくりに努めていきたい。

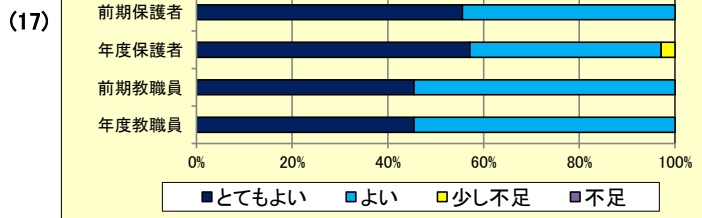
用に移動黒板を	実践課題	主な取組	学校評価B	
			前期	年度
9 特色ある学校づくり	(17) 特色ある教育課程の編成と実施	「自尊・自立・貢献」を核としたふるさとキャリア教育の充実、特色を生かし効果的に教育課程を実施するカリキュラムマネジメント	4	4
10 教育環境の充実	(18) 施設設備・環境の整備	定期的な施設・設備の点検 学習環境の整備 予算の有効活用	4	4

★実践 ○児童 □保護者 ■教職員

(17)特色ある教育課程の編成と実施	
--------------------	--

- 学校は、はつらつ元気農園活動の継続や徒渡りなどの「はつらつプロジェクト」を通して、特色あるふるさとキャリア教育を進めていると思うか。

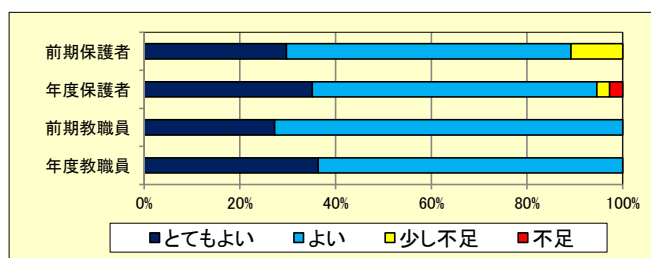
■ 「自尊・自立・貢献」を核としたふるさとキャリア教育などの教育課程の編成と実施により、特色ある学校づくりを行っているか。



(18) 定期的な施設設備の点検 学習環境の整備

- ☐ 学校の周りや校内の施設・設備、学習環境は安全に整備されているか。 (18)
- ☒ 定期的な施設設備の点検と補修・環境整備、予算の有効活用が図られているか。
-
- | 保護者 | 安全に整備されている | 定期的な点検と補修・環境整備、予算の有効活用が図られている | その他 |
|-------|------------|-------------------------------|------|
| 前期保護者 | 約 35% | 約 65% | 0% |
| 年度保護者 | 約 35% | 約 65% | 約 0% |

★来年度修繕予定の遊具(ジャングルジム・がんばり山)



★ 継続して要望していくもの
プールの男女兼用解消と簡易水洗化

イ 学校運営の状況

VI 保護者・地域との連携

学校の状況	学校評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
学校の取り組みを分かりやすく保護者や地域に伝えており、地域の教育力が有効に活用されている。	前期 良好	良好	保護者、地域の方々との協力的な連携により、学校運営が推進されている。常会からの寄付金の支援もありがたい。個別の対応により、理解が必要と感じる保護者との対応をとることができている。丁寧な説明や対応を今後とも継続してほしい。
学校評価の概要と学校の改善策	年度 良好	良好	全体としては、地域や保護者との連携が十分取れている。個別の課題にも寄り添って取り組んでおり、地域の理解も得ている。今後とも一人一人の思いをくんだ対応をしてほしい。
学校評価の概要と学校の改善策	【前期（一年度）】○学校報の定期的な地域配付やホームページ、ブログの更新等で、学校行事や子どもたちの様子を保護者や地域にお知らせしている。また、各学年のお便りで学級での子どもたちの学習面や生活面の様子を保護者に伝えている。その他連絡帳や電話を使って、保護者と連携を図っている。さらに保健だよりを活用し、子どもたちの健康面についても情報を提供し保護者と連携した取組ができるように努めている。→保護者のアンケートでは、不足は2名いる。個別に丁寧に対応したい。昨年の、やや不足が2割近くから1割未満に減少している。これまでに以上情報交換を密に行い、家庭との連携を図ってきたい。 ○学校運営協議会が発足し2年目、4月に熟議を行うなど課題や強みを踏まえて学校運営をスタートすることができた。PTA、地域ボランティアについては、コロナ禍以前に近い実施ができている。クラブ活動の田代太鼓、民謡、大正琴は昨年度と同様に外部の方を講師にお招きし、指導していただいている。→2学期以降の学校行事についても、学校運営協議会のご意見を大切にしながら、本校の強みを生かし、子どもたちの元気を地域に発信できるよう地域のお力をお借りする連携を進めたい。 【年度（一年度）】○学校報の毎月の地域配付やホームページの定期的な更新、行事を掲載したブログ、学年だより等での情報発信を続けている。学校と保護者の連携については、保護者の平均評価は3.30であった。学校の様子、児童の活動の様子をより具体的に伝えようと思いつけたことの成果であると思われる。また、メディアコントロールに関する情報を「保健だより」を通じて提供し、家庭への啓発を図ってきたこともよい評価につながっていると思われる。→引き続き、児童はもとより家族の健康に関わる詳しい情報提供ができるよう努めたい。 ○保護者・地域の協力体制が非常によい。→本校独自の徒渡りをはじめ、様々な教育活動を今後も行うことができるよう、引き続き保護者への協力の求め方、後援会や地域への協力要請など、多くの意見を聞いて工夫していきたい。クラブの外部要請による発表は、児童減に伴い検討が必要である。		

	実践課題	主な取組	学校評価B	
			前期	後期
11 地域・家庭との連携	(19) 家庭・地域への情報発信・受信・相互理解	学校報の家庭・地区配付 ホームページ・ブログ 各種通信情報発信による「チーム早口」啓発活動	4	4
	(20) 学校評価の計画的実施と充実	学校評価アンケートの活用 学校評価だより・評価書の家庭・地域への開示 (HP)	4	4
12 地域の教育力の活用	(21) 保護者との連携や地域素材・人材の活用	PTA・保護者ボランティア・クラブ活動指導者との連携 地域学校協働本部・田代地域学校協働会議の活用	4	4

★実践 ○児童 □保護者 ■教職員

(19) 家庭・地域への情報発信・相互理解

□ 学校報、学年だより、学校HPやブログなどは、学校や子どもたちの様子を分かりやすく伝えていると思うか。

■ 学校報・各種通信の配付、HP・ブログ等での情報発信による「チーム早口」啓発活動により、教育活動が分かりやすく伝えられているか。

□ 学校は、連絡帳や個人面談、その他の情報交換により、保護者との連携を行っていると思うか。

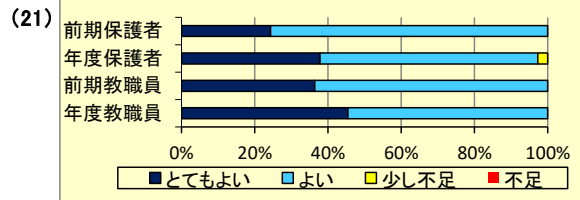
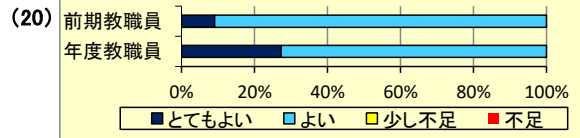
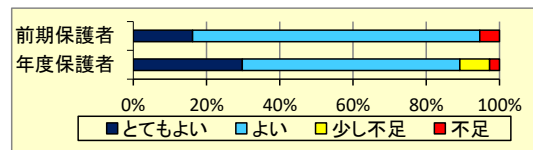
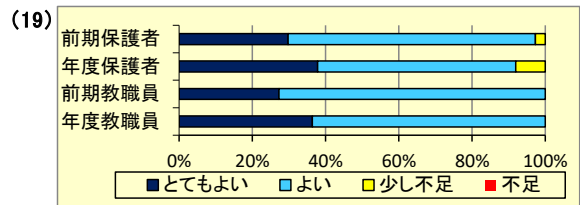
(20) 学校評価の計画的実施と充実

■ 学校評価アンケート活用 学校評価だより・評価書の配付が計画的に行われているか。

(21) 保護者との連携や地域素材・人材の活用

□ 学校は、PTA活動や様々な行事、各教科学習、クラブ活動などで、保護者や地域の教育力を活用していると思うか。

■ PTA・地域ボランティア・クラブ活動指導者との連携や、学校運営協議会を生かした家庭・地域との連携、地域学校協働本部・田代学校協働会議を活用しているか。



★二子山登山

今年度も3年生が二子山親子登山を実施した。実施に当たり、二子会の皆様に登山道の草刈り、急斜面のロープ設置、当日の案内と協力いただいた。



★田植え・稲刈り体験・販売体験

今年度も、佐藤様ご夫妻のご指導、ご協力で、5年生が貴重な体験を行うことができた。また、収穫したさつまいもとものに、市日で販売できた。



★外部指導者によるクラブ活動

今年度も3つのクラブすべてで、外部指導者にご指導いただき、分館祭などで発表するなど充実した活動を行うことができた。

